

2020年度 ブロック長意見交換会

1. 日 時 : 2019年8月2日(日) 13:00~15:00
2. 場 所 : 大阪市北区豊崎3-20-1 インターグループビル会議室 ZoomにてWeb会議
3. 出席者
 - (1) 本人出席者 23名
大橋健(代表理事)、水野勝教(専務理事、東海代理)、今井俊二(理事・沖縄)、島谷太(理事・阪神)、中島晃芳(理事)、野村泰朗(理事)、森重智年(理事)、小山航太(理事)、松山森仁(理事)、田中宏明(監事)、小田香子(東北代理)、富永一利(関東)、玉水亘(埼玉)、山田巧(群馬)、川上誠(静岡)、宮崎倫明(岐阜)、出村公成(石川)、西田好光(関西)、吉本光希(京滋奈)、井関暁洋(中丹・南丹)、玉島琢巳(兵庫)、山野真一(広島)、是澤郁(九州)
 - (2) 欠席者 6名
松本紗映(北海道)、瀬谷知之(福島・栃木)、吉楽雅典(北信越)、澤山博幸(岡山)、樋川直人(四国)、村川立美(島根)
 - (3) その他出席者 3名
前田正久(事務局長)、浅沼まり(事務局)、休場万喜(事務局)
4. テーマ
 1. 2019年度活動報告
 - ・ノード, ブロック大会参加状況
 - ・和歌山大会中止について
 - a. 出場資格証明書の発行
 - b. 電池ルールの確定
 - c. ビデオ審査について
 - ・2020ボルドー世界大会延期について
 - ・RCAP2020 Aichi大会延期について
 - ・オンラインで開催されたイベントについて
 2. 2020年度活動計画
 - ・ノード, ブロック大会の計画(各ブロックより)
 - ・2021年名古屋大会について
 - ・2021ボルドー世界大会について
 - ・RCAP2021 Aichi大会について
 3. RCJJ運営について
 4. その他
5. 配布資料
 - 資料1-2 ノード大会参加人数
 - 資料1-3 ノード大会出場チーム数
 - 資料2 2020/2021年バッテリールールについて
 - 資料3 ワールドリーグ・ビデオ審査について(報告)・審査申請書類
 - 資料4 RoboCup2020関連のオンラインイベント
6. 意見交換会概要

●小山理事より、資料1-2、1-3に基づき、参加人数の推移について、WLではサッカーオープン、シミュレーション、OnStageに減少傾向が見られるとの報告がなされた。シミュレーションは学校単位でのエントリーが多いため、その年により参加チーム数にばらつきがある。上位リーグであるMAZEの減少は顕著であり、上位リーグへの誘導が課題であるとの説明がなされた。WLでの減

少は世界大会の年齢制限が上がってきていることが要因であること、他には中学校の部活動で始めた生徒は、上位カテゴリーに移行する時期と受験が重なることが減少の要因ではないか、との説明がなされた。集計表未提出のブロックが多数あるため、数字の正確な分析が困難であり、未提出のブロックに対し、提出を促した。また、来年度以降のノード大会からエントリーをジャパンオープンと同様の統一エントリーフォームで行いたいとの提言がなされ、意見を求めた。

●玉水氏より、ノード大会の段階で人数を報告するのか。各ブロックでノード大会の実施時期が異なるため、統一フォームが9月頃に公開してもらえれば可能だが、間に合うのかどうかとの質問があった。

●宮崎氏より、必要としている内容が違うので、統一エントリーフォームでは運用が難しいのでは、との意見があった。この件について、水野専務理事からジャパンオープンのフォームでは足りない項目があるかどうかの質問がなされた。また、他のロボット大会ではエントリーの開始と終了時期が決まっているが、RCJJでは決まっていないため、参加者からすると分かりづらいのではないかと。また、エントリーは同一時期に開始・終了するのが理想であるので、まずは共通のフォームでデータを収集し、集計する方がいいのではないかと説明がなされた。

●山田巧氏より、今の状況でそのようなシステムを導入するべきでない。維持することで精一杯ではないか、との意見がなされた。これに対し大橋代表理事より、大会開催も難しい中、今年から導入することは考えておらず、来年以降の導入に向けて進めるために意見を頂き、ノードで集計したい情報も含めて検討をしたいとの説明がなされた。

●山田巧氏より、集計で男女の区別を収集し、報告すること自体が問題ではないか、との質問があった。これに対し、水野専務理事より、以前にも同様のご意見を頂いていたが、フォームの改定をせずに今回そのまま依頼をしてしまったので、来年度以降は男女別項目は削除すると回答した。

●是澤氏より、昨年、一昨年も議題に挙がっていたと思うが、理事会での利用方法を知りたい。また、データはどこで管理し、そのデータをどのようにノード・ブロックで活用できるようになるのかとの問いがあった。水野専務理事より、ブロック長からの了承を得てから具体的な手順を決めるため、まだ詳細は決まっていないとの回答があった。是澤氏より、統一フォームにすることに対し、前回反対意見がブロック長会議で挙がったと思うが、その後どういう検討をしたのかとの質問がなされた。その件について、水野専務理事より、特にその後検討したわけではないと回答があり、続き野村理事より、チーム数や参加人数をどのように収集していくのかという理事会での議題の中で、統一フォームにする件があがってきたとの説明がなされた。松山理事より、関西ブロックとしては、学校の授業の一環として行っているノードもあり、先生ひとりが40チーム分を入力する可能性があるのでは、選択できればいいとの意見があった。これに対し山野氏より、統一フォームの方が情報の抜けがなく助かるのでは、との意見が出た。大橋代表理事より、来年度の総会までに詳細をまとめ、統一フォームにするか否かを定めることとした。

●事務局より、出場資格証明書について、申請済みのブロックには、すでにデータをお送りしているが、静岡ブロックのみ週明けに送る予定であり、福島・栃木ブロック、島根ブロックからはまだ申請がない旨、報告がなされた。

●松山理事より、資料2に基づき、電池ルールについて説明がなされた。公式HPにて2020年ルールは公開しており、サッカーだけでなく、リチウムイオン電池を使うレスキューや他リーグでも適

用されること、2021年も基本的にはこのルールだが、会場が変わるので見直す点があることを付け加えて説明がなされた。

●今井理事より、資料3に基づき、ワールドリーグ・ビデオ審査について報告がなされた。昨年のブロック長会議では、ビデオ審査は負担になるという意見があったが、今回のビデオ審査では特にクレームはなかった。大橋代表理事から、このままの運用を継続することに意見を求めたが、特に意見も挙がらず今年も継続することとなった。

●水野専務理事より、2020ボルドー世界大会、RCAP2020Aichiが延期されたことが報告がなされた。また、資料4に基づき、RoboCup2020関連のオンラインイベントについて説明がなされた。

●水野専務理事より、ノード・ブロック大会の見通しについて、質問がなされた。

・水野専務理事より、東海ブロックの代理として、東海ブロックは例年12月の初旬にブロック大会を高校の施設を利用して行っているが、今年はこれまで通りには利用できないと聞いている。各ノードはコロナ対策を取りながら実施するが、ブロック大会は不明であるとの説明があった。

・富永氏より、関東ブロックは、学校の施設を利用しており、ノードで20チーム、ブロックで70チーム参加するので、感染対策を取っても本当に大丈夫なのか不安は残るが、コロナの終息状況によって開催出来るかの判断をしていきたいとの説明があった。

・西田氏より、関西ブロックは、学校でノード・ブロック大会を行っていたので、どのように開催するかは未定との説明があった。

・是澤氏より、九州ブロックは、例年どおり科学館で行う予定だが、三密を考慮し日程を増やすまたは、北九州と福岡で分けて行うなど9月に入ってから感染状況を見て、会議するとの説明があった。

・玉水氏より、埼玉ブロックは、例年通り12月にノード大会、1月にブロック大会を実施する予定だが、例年利用している埼玉大学には確認中、戸田市の公共施設は人数制限はあるが、使用できるので、レスキュー、サッカーは別日程や午前午後に分ける等、オンラインの開催も検討しているとの説明があった。

・山田巧氏より、群馬ブロックは、例年ノード大会は11月～12月、ブロック大会は1月下旬に実施するが、出来るだけ開催する方向で、複数日程で準備を検討しているとの説明があった。

・川上氏より、静岡ブロックは、例年11月にノード12月にブロック大会を実施しているが、今年はどちらのノードも活動ができていない。また、スキルアップ教室や体験会も実施できていない。これからブロック内で検討するとの説明があった。

・宮崎氏より、岐阜ブロックは、例年サイエンスワールドで1月に行うが借りられるか不明。夏休み明けのノードの活動も未定との説明があった。

・出村氏より、静岡ブロックは、例年夏から秋の体験会などで新人を勧誘しているが、その活動もできない。金沢工大は外部の利用ができないので、例年参加している高校と相談をするとの説明があった。

・吉本氏より、京滋奈ブロックは、工夫してブロック大会を実施したいとの説明があった。

・井関氏より、中丹・南丹ブロックは、参加者の気持ちに配慮し、安全対策をした上で出来るだけ実施したいので検討中との説明があった。

・島谷理事より、阪神ブロックは2月6日に商工会議所で開催予定。ノード大会は実施する予定で

各学校の選抜チームが出場する予定との説明があった。

・玉島氏より、養父市の体育館で12月に実施予定。今後協議して決めていくが、状況次第との説明があった。

・山野氏より、広島ブロックは、自動車販売店の施設を使用し、人数を半分に抑える予定。体験会、定例講習会等の活動が出来ておらず不安であるとの説明があった。

・今井理事より、沖縄ブロックは、12月に各競技に分けて実施予定。参加チームは減ると予想しているとの説明があった。

・小田氏より、東北ブロックは、例年であれば3か月前に会場を抑えるがキャンセル料がかかるため、この状況下ではまだ予約ができない。会社の会議室を借りるとする案もあるが、活動も出来ていないので未定との説明があった。

●前田事務局長より、ブロック大会は実施されないが、ジャパンオープンを開催する場合の、選抜方法について質問がなされた。これに対し水野専務理事は、ノード大会が行われない場合、各ブロックへの枠数を決め、各ブロック長で選抜を決めてはどうかとの提案がなされた。

●是澤氏より、九州ブロックのレスキューはオンラインでの可能性はあるが、何かしらの審査基準が必要ではないかとの意見があった。

●玉島氏より、ブロックで状況が異なるためブロックに一任して欲しいとの意見があった。

●川上氏より、選抜は各ブロックに一任して欲しいが、枠数の配分で揉めないように、過去の参加数実績等を考慮し割振りして欲しいとの意見があった。これに対し水野専務理事は、会場のレイアウト次第で枠数が変わるため、図面が確定する10月頃に全体の枠数が分かり、12月頃に枠数が決定する予定との説明がなされた。また、大会開催の是非は12月中に発表される見通しであると説明があった。

●大橋代表理事より、2021年名古屋大会について、予定通り3月26日～28日で実施を予定しており、観覧者（関係者、保護者を除く）を入れず、体験会等サイドイベントも中止するため、通常よりも広く会場を使用できる。最大でも例年の半分から例年通りのチーム数で実施できるのではとの見解を述べた。

●野村理事より、2021ボルドー世界大会について、7月8日にRegionalRep会議が行われ、2021年仏ボルドー大会は大会規模、チーム数を維持し準備中である旨、報告がなされた。また、2020年の選抜を行ったRegionは、選抜メンバー内に20歳の選手がいた場合でも、2021年ボルドー大会には特例として出場することができるが、選抜大会を行っていない日本は例年通りなので、特別な配慮をする予定はない。2020年大会の出場権を有した選手のうち、2021年7月1日時点で20歳の選手は2021年のノード・ブロック大会へ参加できることはすでに認めているが、世界大会への推薦は国際ルールに準じ20歳の選手は出場できないとの説明がなされた。大橋代表理事より、これに該当するチームはあるかとの問いに対し、関東ブロックで1名、関西ブロックは2チームが該当するとの報告があった。

●大橋代表理事より、ジャパンオープンは中止されたが、世界大会が実施される場合の選抜方法を決める必要があり、選抜メンバー内でビデオ審査を実施する等、RCJJとして出来る範囲での選抜方法を理事会で検討するとの説明がなされた。

●事務局より、6月に持続化給付金200万円が給付されたことを報告した。

●森重理事より、レスキューLineにシートが新たに追加され、ダイセンさんから図面の公開と販売を予定しており、準備が出来次第メーリングリスト等で公開するとの説明がなされた。

●森重理事より、新たなシミュレーションリーグについて、レスキュー国際でRescue New Simulationリーグの立ち上げに先駆けて、今年9月にデモ競技がスタートする。これを受け、国内では実機とシミュレーションが別になっているので、今後一体化する方向で検討しており、今後順次情報共有していきたい。また、LINEからMAZEへの移行が難しいという問題の解決策になればとの説明がなされた。